

下関国際新聞

中学1・2・3年生

下関市総合政策部
国際課

Tel:083(231)9653

Email:sskokusa@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

中学生米国派遣研修団が元気に帰関

7月30日市内中学生代表8名を姉妹都市米国ピッツバーグ市（カルフォルニア州）に派遣。5泊のホームステイを終え8月5日に元気に帰関しました！

次代を担う小さな国際人育成に向けて

下関市では、平成12年度から国際化に対応できる人材を育成するため、毎年8名の中学生を国際親善大使に任命し、米国ピッツバーグへ派遣しています。本年度の派遣団は、市議会、警察署、総領事館等の視察、地元高校生との交流やホームステイ等を通して、本場の英語や米文化を肌で体験しました。



6月下旬、市内各校から集まった団員8名は、緊張した面持ちで開講式を迎えました。出発までの4回の事前研修では、「知りたいプリント」を作成し、団員各自が米国での研修目的を明確にしていきま

テ・ン・ボ・イ・ス
(団員の声)
ホームステイに行って、初めて生きた英語というのを体験しました。日本人の話す英語とは一味違うということに改めて実感することができました。私は将来英語関係の仕事に就くのが夢なので、その夢に向かって大きく一歩前進できた良い経験でした。(長府中U.H)

今回の研修で、世界の「つながり」を感じました。地球は丸いと分かっているにもかかわらず感じていた日本だけの世界。それはもう今は完全に飛び、世界のつながりと世界の広さを体いっぱい感じました。世界はやっぱり広がった。(長府中T.T)

見るもの、すること、全てが新鮮でした。この思い出は私の宝物になりました。今回は簡単な英会話しかできなかったのも、もっと勉強して、外国人とたくさんコミュニケーションができるようになりたいと思いました。(川中中M.K)

アメリカへ行き、アメリカの良さを知るとともに、日本にいた時には気づかなかった日本の良さも知れる機会となりました。また、この研修で出会えたメンバーやホストファミリーとの縁に感謝しています。(川中中Y.N)

この1週間で文化の違いはもちろん、人と人とのつながりを実感できました。聞きとれなければ何度も言ってくれました。一生懸命伝えようとしてくれる、それがとても嬉しかったです。今度は英語をもっと勉強して将来またアメリカに行きたいです。(川中中S.M)

今回の研修で一番感じられたのは、「人は経験を積んで未来を開く」ということです。衣食住の違うアメリカでたくさんの経験をしたことにより、自分の思っていた、うっすらな夢は強い夢へと変わりました。この夢が叶うように全力で頑張りたいと思います。(玄洋中N.M)

僕はこの研修でとてもいい経験をさせていただくことができました。とにかく楽しく、充実した日々の中で、外国にしかない良さや日本の良さを再発見できました。この最高の経験を忘れず、さらに大きく成長していきたいと思っています。本当にすっごく楽しかったです！(玄洋中N.T)

今回、アメリカでこのような体験ができてとてもうれしかったです。このような体験は、私の人生においてこれからもできないと思います。この研修で起きたハプニング、学んだことなどがすべて私の良い思い出になりました。(夢が丘中T.M)

"I've come to look for America." 中学生の頃から大好きだったS&Gのアメリカを口ずさみながら車窓から眺める景色。すべてを五感で感じとる生のアメリカ。「来て良かった」という全員の思い。夜はdraft beerで乾杯しました。(団長T.H)

派遣団皆で果敢に挑戦し、心から楽しんだ7日間。団員のみんなには、この研修で感じたワクワク感を必ず次のステップに繋げてほしいと思います。最後に、この研修を応援して下さった多くの皆様。お蔭様で素晴らしい研修になりました！本当にありがとうございました。(引率O.Y)

「Connecting the dots」を引用し、「今の経験が必ず将来のどこかで繋がると信じ、皆さんのチャレンジをしてください。」という力強いメッセージ送ってくださいました。

サンフランシスコからピッツバーグ市までは車で約1時間半。薄曇りで肌寒いサンフランシスコに対し、ピッツバーグは日差しが肌を刺すような猛暑です。わずか60km圏内でのこの気温差には驚かされました。ピッツバーグ市で団員達を出迎えてくれたのは、ホストファミリーのみならず、最初は、少し硬い表情だった団員達も、ホストファミリーの大きな笑顔に、ほっと安心。

研修2日目は、ピッツバーグ市内を散策しました。最初に訪れたのはピッツバーグ高校。夏休み中にも拘らず、たくさんの生徒が校舎内を案内してくれました。校舎内はきれいな芝生のグラウンドや大ホール、屋外でも昼食を楽しむカフェテリア等施設がとて充実しています。ピッツバーグ市は、アートとスポーツに力を入れている、夏休み中にも熱心に活動を行う高校生姿が見られました。

次に訪れたのは、ピッツバーグ市議会。ガラス張りの明るい議事室で、副市長や議員の皆様が歓迎してくださいました。議員席に座らせていただき、団員達もご満悦。この日は、その他にも警察署やヒストリカルミュージアム、カリフォルニア州リフォルニア州シアタール等、ピッツバーグの目玉スポットを見学しました。夜には地元の人で賑わう食べ歩きイベントにも参加し、ピッツバーグの明るい街の雰囲気存分に味わいました。

3日目は、州都サクラメントを訪れました。最初に霧のサンフランシスコへ4日目の土曜日は、ホストファミリーと共にサンフランシスコへ。最初に訪れたのは、ゴールデンゲートブリッジです。霧に包まれた真つ赤なゴールデンゲートブリッジは、冷たい空気の中で凍りついた表情を見せてくれました。団員達は、バスを降りるやいなや「寒い、寒い。」と足早に程なく、寒さから逃れるようにウオーターフロントのショップPINGエリア「ピア39」に向かいました。ピア39は色々な国籍の観光客で大盛況でした。団員達は人の波をかき分け、お土産探しに一生懸命。手持ちのお金を思いっきり使った。研修4日目になると、団員達の口からは自然と「サンキュー」や「ソーリー」と英語がこぼれるようになり、英語がアメリカのリズムが段々と掴めてきたようでした。皆とても楽しそう。研修も残りわずかとなり、団員からは、「まだ帰りたくない！」の声が。

あつと言う間の5日間が過ぎ、別れの朝がやってきました。別れ際の言葉に涙を浮かべる団員達。期待と不安を抱えてやって来たピッツバーグで出会ったのは、大きな心で自分達を受け止めてくれた、たくさんの温かい人達でした。最後は、しっかりとハグをしながら、「ありがとう。」の気持ちを持ち伝えました。

新下関駅で先生方やご家族等多くの方々に送られ、ピッツバーグへいざ出発！

最初に降り立ったサンフランシスコは、アメリカ西海岸きつての大都市です。グーグルやフェイスブック等日本でも馴染みのIT関連企業もここに本社を置いています。この日は、高層ビルの21階にあるサンフランシスコ総領事館を訪れました。ここで、総領事の役割や日米の交流について教えてくれたのは秋原領事。最後はステイブ・ジョブズの「Connecting the dots」を引用し、「今の経験が必ず将来のどこかで繋がると信じ、皆さんのチャレンジをしてください。」という力強いメッセージ送ってくださいました。

見学したのは荘厳な雰囲気のカリフォルニア州議事堂。エントランスには、大理石で作られたスペイン王妃イザベラとクリストファー・コロンバスが待ち受けます。その頭上には、美しい円蓋が壁面はだまし絵になっており、彫刻のような立体感が感じられます。また、緑を基調とした下院議事室と赤を基調とした上院議事室も印象的でした。その後、カニが有名なレストランへ。団員達は、大きな口ブスターやカニの爪を頬張りながら、店員さんによる歌や踊りのパフォーマンスを楽しみました。昼食後は、オールドサクラメントを散策。ここは、古き良きアメリカの街並みが味わえるエリアです。とあるキャンドゥショップでは、緑の値札が付いた商品は全て試食ができました。赤や緑といった色鮮やかなキャンディは、日本では見られなかなかに見られな色使いが目を惹きました。ボール程の大きさがあるパブルガム等面白い商品もたくさんありました。

ピッツバーグ最終日。ピッツバーグのリーグ最終日は、団員達のリクエストによりプールへ。公園のような大きな施設の中には、多種多様なプールがあり、地元の子ども達で大賑わいです。団員達もスライダールや備付の遊具に大はしゃぎ。ほとんど休憩もとらず、へとへとになるまで楽しみました。

プールの後は、ホストファミリー宅でホームパーティー。ここで団員達は、お世話になったホストファミリーによさこい踊りを披露しました。お揃いの法被に身を包み、少し緊張しながらも、一生懸命に踊る団員達。踊り終わると、ホストファミリーから一斉に拍手とフラッシュの嵐が。皆の顔から笑みがこぼれ、忘れられない思い出のページになりました。

ピッツバーグ最終日。ピッツバーグのリーグ最終日は、団員達のリクエストによりプールへ。公園のような大きな施設の中には、多種多様なプールがあり、地元の子ども達で大賑わいです。団員達もスライダールや備付の遊具に大はしゃぎ。ほとんど休憩もとらず、へとへとになるまで楽しみました。

